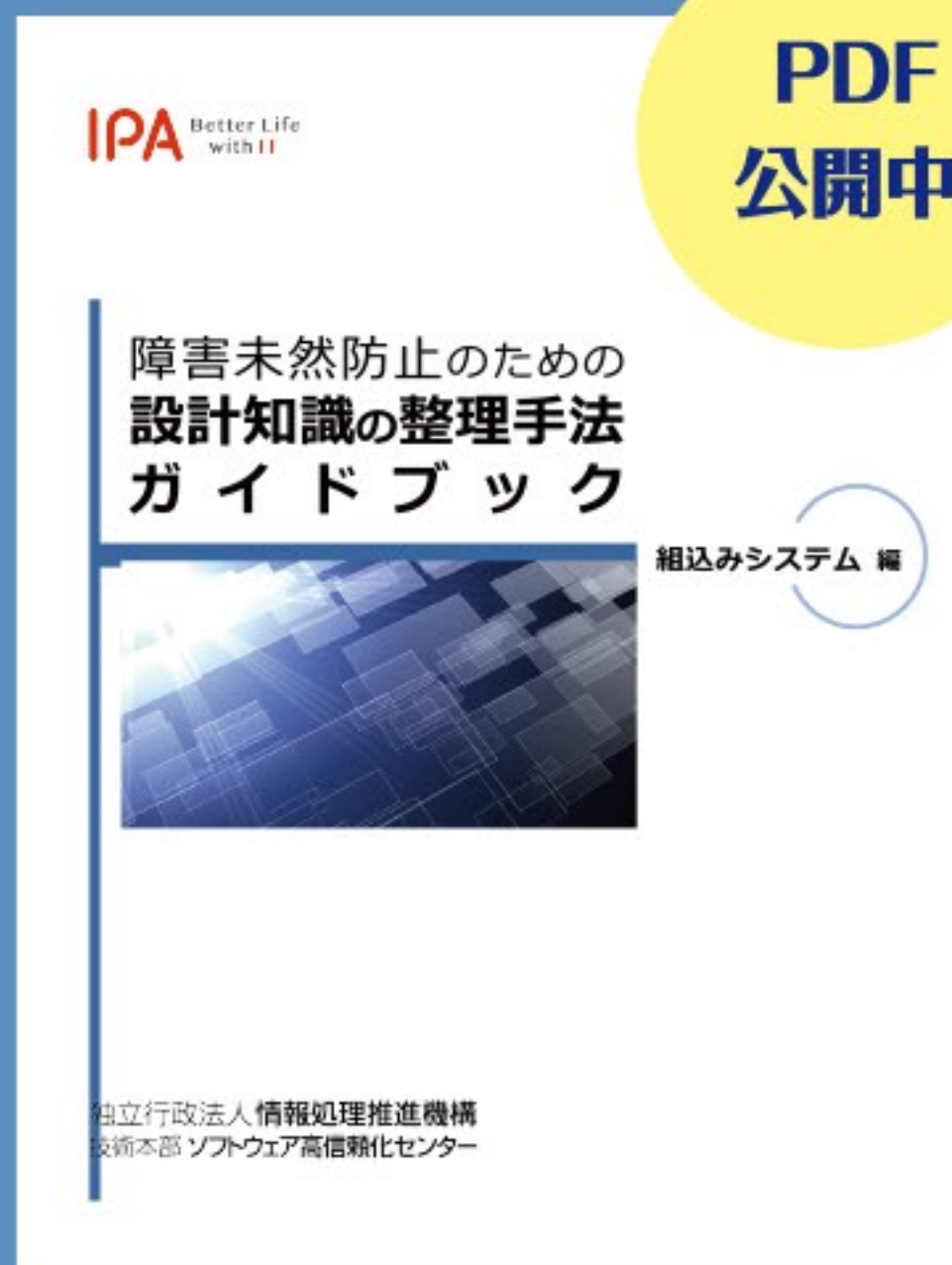


社会インフラのシステムトラブルを防ぐ

情報処理システム高信頼化教訓集

設計知識の整理手法



PDF
公開中

情報処理システム高信頼化教訓集



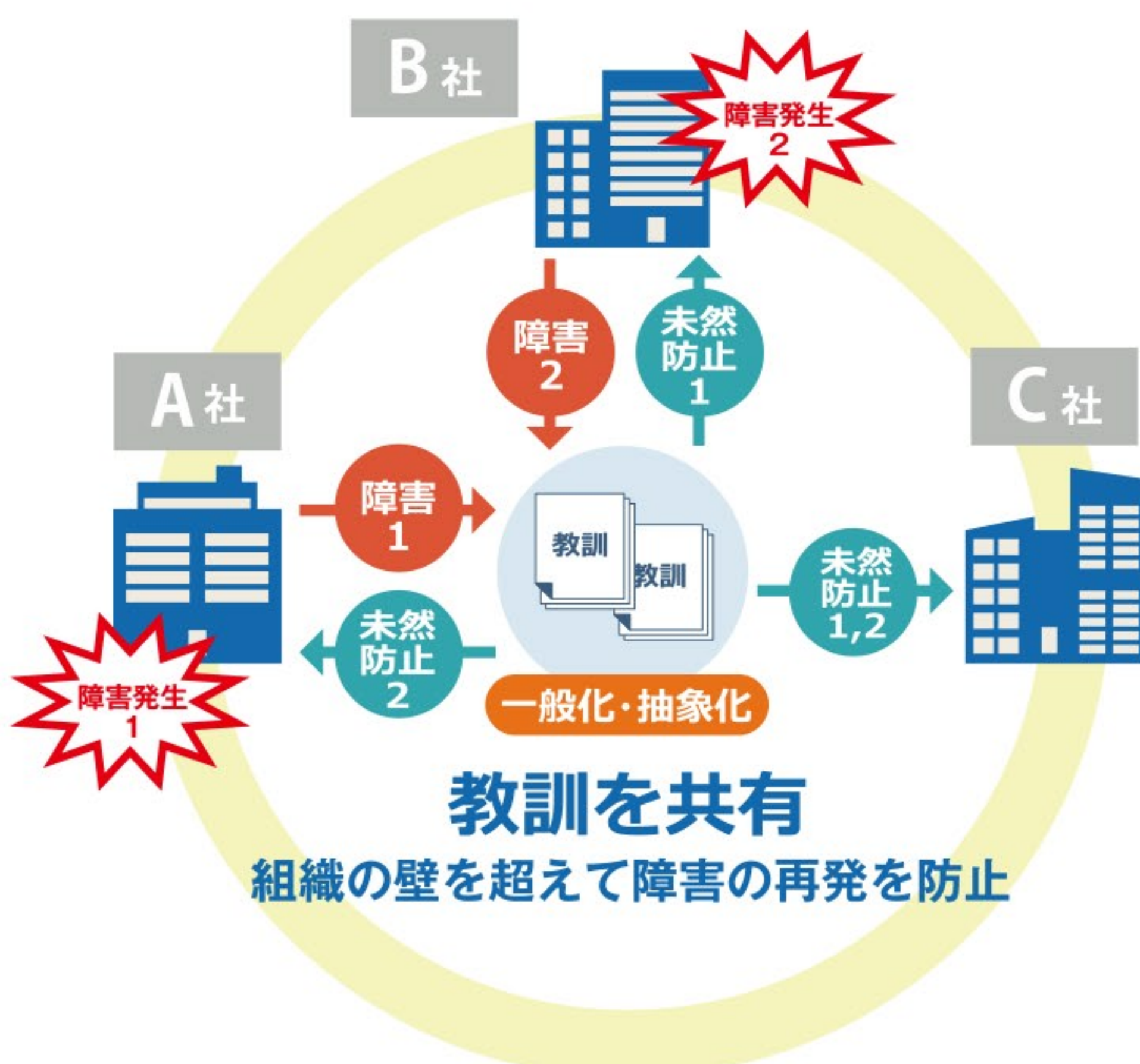
PDF
公開中



PDF
公開中

- 教訓集に掲載した障害事例から設計に必要な基礎知識を抽出する手法を紹介
- 設計知識の再利用を促す工夫を紹介

- 守秘ルールを締結した上で、生の障害事例を広く産業界の各分野から収集
- 業界の知見に基づく再発防止策・未然防止策を教訓化
- 障害分析手法や対策手法を紹介



教訓の例

組込みシステム編

フラッシュメモリを使用する場合には、書き込み寿命回数を考慮すること (教訓 No.6)

歩留りのある製品の良品/不良品を検査する装置では、全てが良品あるいは、不良品との検査結果は異常と判断すべきである (教訓 No.12)

ITサービス編

システム開発を情シス部門だけの仕事にせず、各事業部門が自分のこととして捉える「態勢」をつくるのが大切 (教訓 G1)

作業ミスとルール逸脱は、個人の問題でなく、組織の問題! (教訓 G6)

作業ミスを減らすためには、作業指示者と作業者の連携で漏れのない対策を! (教訓 T21)